

第54回関東実業団剣道大会

平成24年6月3日(日)
日本武道館
主催◆関東実業団剣道連盟
撮影◆窪田正仁

全日本大会制覇に続き 東洋水産(本社)が 優勝を飾る

昨年は、東日本大震災発生からほどない時期だったこともあり、185チームの参加にとどまった大会だが、今年は198にもおよぶチームがエントリーし、活気ある戦いが再び帰ってきた。大会の決勝は昨年と同カード。前年2位に泣いた東洋水産(本社)が、三井住友海上(本店)の連覇の夢を打ち砕いた。



決勝 【副将】久木原(東洋水産・本社)②コー 外之内(三井住友海上・本店)

▲初太刀で思い切ったメンを繰り出した久木原。その後、ツツと静かに攻め込んで跳んだメンが鮮やかに外之内をとらえた。反撃に転じた外之内も力強い攻めからの逆ドウで沸かせたが、久木原が狙い澄ました出ゴテを追加(写真)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
東洋水産(本社)	1	庄司	石川	青木	久木原	下川	1
	2	〇	〇	〇	〇	〇	2
三井住友海上(本店)	1	鈴木	石井	高村	外之内	小田口	0
	2	〇	〇	〇	〇	〇	0



優勝◆東洋水産(本社)

下川慶次郎、久木原裕二、青木宏介、石川康宏、庄司祐也、小林秀寿。監督=森久清文



最優秀選手賞◆下川慶次郎(東洋水産・本社)



準決勝 【中堅】高村(三井住友海上・本店)②ー 国本(NTT東日本・東京)

▲1対1で迎えた中堅戦は高村が意表を突いた片手メンを決める(写真)。しかし副将戦ではNTT・梅山が奮起してまた逆転。大将戦は小田口がメン、そして山本のメンに逆ドウを合わせてNTTを振り切り、好勝負にケリをつけた

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
三井住友海上(本店)	1	鈴木	石井	高村	外之内	小田口	3
	2	〇	〇	〇	〇	〇	4
NTT東日本(東京)	1	小林	竹越	国本	梅山	山本	2
	2	〇	〇	〇	〇	〇	3



準決勝 【大将】下川(東洋水産・本社)②メー 丸山(日通商事・本社)

▲先鋒戦で喫した二本負けを挽回したい東洋水産。中堅・青木が勝利を挙げるのもう一本が届かない。勝負のかかった大将戦、下川が強烈なコテメンを見舞って一本を奪うと(写真)、続けざまにメンをたたき込み、逆転勝利を遂げた

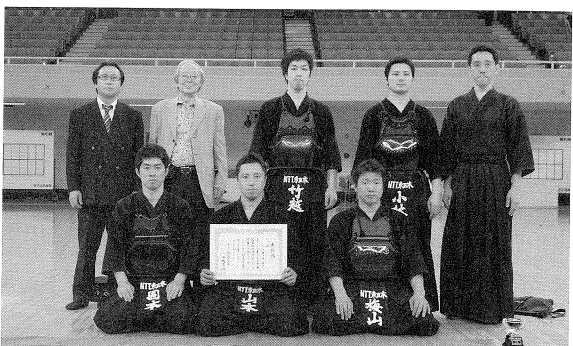
チーム	順	先	次	中	副	大	得点
東洋水産(本社)	1	庄司	石川	青木	久木原	下川	2
	2	〇	〇	〇	〇	〇	3
日通商事(本社)	1	本橋	中野	諸江	只野	丸山	2
	2	〇	〇	〇	〇	〇	1

昨年のベスト4進出チームは、優勝から三井住友海上(本店)、東洋水産(本社)、NTT東日本(東京)、富士ゼロックス東京(本社)だったが、三井住友海上、東洋水産、NTT東日本の伝統ある3チームは、今大会でも準決勝へと進出した。

ダーもまた前回とまったく同じという決勝戦。昨年は三井住友海上が先鋒・鈴木、中堅・高村の活躍で優勝を奪取したが今回は果たして……。実業団大会では上位常連の両チーム。互いの手の内を知り尽くしているからか、戦いは先鋒戦から引き分けの続く、緊張感漂う流れとなった。

勝負が動いたのは副将戦である。東洋水産のチーム最年長(36歳・久木原)が対する外之内から見事なメンで先制すると、その後はコテも追加し、値千金の二本勝ちを挙げる。三井住友海上は大将・小田口が勝負をあきらめることなく果敢に攻めるも、対する下川は有効打を許さずここを引き分けに抑え、東洋水産が昨年のリベンジを

果たすと同時に第26回大会(昭和59年)以来の優勝に輝いた。東洋水産は昨年は全日本大会を制覇しており、今回の優勝で二つ目のビッグタイトル奪取となった。大会終了後、東洋水産・森久清文監督は充実の笑顔。「関東大会の優勝は久々のこと。昨年は全日本で優勝させていたいただいていることもあり、続けて勝つ、ということは難し



準々決勝 NTT東日本(東京)1(2)×0(0)ニチベイ
【次鋒】竹越 ⊗ツー 清田

▲第44回大会(平成14年)以来のベスト4進出に迫ったニチベイだったが、迎えた次鋒戦ではNTT・竹越が強烈な跳び込みメン(写真)、諸手ヅキを奪って勝利。その後は大将戦まで引き分けに終わり、NTTがニチベイの入賞を阻んだ

準々決勝 三井住友海上(本店) 1(2)×0(1) 伊田テクノス(千葉)
【先鋒】鈴木 ⊗コー 栄花

▲長身の鈴木が相メンを制して一本を先取(写真)。続いてコテも追加して大きな一勝を挙げた。その後は三井住友海上もしぶとく戦い、伊田テクノスに反撃のチャンスを与えず、結果的に先鋒のこの一勝が決め手となった

準々決勝 東洋水産(本社)2(3)×1(2) セントラル警備保障(本社)
【先鋒】庄司 ①— 田嶋

▲初入賞を狙うセントラル警備保障に対して、先鋒・庄司がドウに切り込んで白星先行(写真)。しかしセントラル警備保障は中堅・丸山がコテを二本奪って逆転。このピンチを救ったのはやはり大将の下川。大将戦、1分17秒で二本勝ちを収めた

準々決勝 日通商事(本社)3(5)×2(2) 富士ゼロックス東京(本社)
【副将】只野 ⊗コ一 斎藤

▲先鋒戦こそ奪われたものの次鋒、中堅が勝って逆転した日通商事。勝負を決めたい只野は開始から気合充分。すばやい攻め込みからメンを奪うと(写真)、続けざまに出ゴテを決めて快勝。ベスト4進出を決めた

いことだったかと思っています。選手たちにはケガをしている者もあり決してベストコンディションではありませんでしたがとにかく大将につながるように、雑にならずに大将につながる試合を、ということを伝えて今日は戦い抜きました」

その頼れる大将・下川は、勝負が大将戦ともなれば群を抜いた強さを発揮し、この日もチームの守護神となった。堂々の最優秀選手賞受賞である。

「下川あつてのチームなので、うまく大将につながるようにという気持ちで戦いました」と監督と同様のコメントを残したのは、決勝戦で金星を挙げた久木原。実は久木原と次鋒・石川は現在それぞれ愛知県、秋田県へと転勤になったばかりなのだという。

ものの、2位の三井住友海上、3位のNTT東日本、日通商事(本社)の入賞もまたさすがのひと言である。

2年連続決勝進出の三井住友海上しかり、NTT東日本もこれが2年連続の3位入賞であり（52回大会ではNTTが3位。それを含めれば3年連続の入賞となる）、昨年の全日本大会でも3位にコマを進めているチーム。過去に全日本大会で

日本一を達成している日通商事も昨年は全日本大会で決勝に進み、東洋水産と対戦した末に2位となったチームである。

近年、新興チームの奮闘、あるいは古豪の巻き返しなどが目立ってきてはいるものの、優勝、入賞という最終的な結果においては、やはり伝統ある強豪チームが変わらぬ地力を見せつけた今大会の結果となった。

